

東住吉区の現状について

(大阪市及び各区との比較について)

【人口総数について】

○東住吉区の人口総数については、平成27年と平成28年を比較すると▲68人。平成17年と比較すると▲8,785人。10年間で9,000人近く減少している。

○平成20年以降、1,000人前後の人口が減少していたが、平成28年・29年は▲68人・▲70人と大幅に減少幅が小さくなっている。

●大阪市の人口は、昭和40年以降平成12年まで減少傾向で推移してきたが、平成17年には増加に転じ、平成22年には、約267万人となっている。

●平成27年を境に減少に転じ、平成52年には232万人(平成22年に比べ△13.1%)にまで減少することが見込まれていた。(※実際は平成29年時点で大阪市全体の人口総数は増加中)

◎長期的な予測では、各区の総人口推移(平成22年⇒平成52年増減率)中心部の5区(北・西・中央・福島・天王寺)では増加が見込まれているのに対し、その他の区では減少が見込まれ、30%を超える減少が見込まれている区も2区(大正・西成)ある。東住吉区は20%以上30%未満の減少が見込まれている(他は港・旭・住之江・生野)。

○は東住吉区、●は大阪市全体、◎は各区比較

【区別の人口増減数と人口増減率について】

(平成29年10月1日現在推計人口年報)

表4-2 人口増減数(上位7区)

順位	平成26年～27年		平成27年～28年		平成28年～29年	
	区名	増減数(人)	区名	増減数(人)	区名	増減数(人)
1	中央区	4,106	西区	3,092	北区	3,429
2	北区	2,995	中央区	2,388	西区	2,145
3	西区	2,690	北区	2,316	浪速区	1,349
4	浪速区	2,597	淀川区	1,667	淀川区	1,268
5	天王寺区	1,230	天王寺区	1,561	東成区	1,148
6	淀川区	1,188	浪速区	1,235	天王寺区	1,082
7	福島区	719	都島区	1,052	福島区	1,029

表4-4 人口増減率(上位7区)

順位	平成26年～27年		平成27年～28年		平成28年～29年	
	区名	増減率(%)	区名	増減率(%)	区名	増減率(%)
1	中央区	4.6	西区	3.3	北区	2.7
2	浪速区	3.9	中央区	2.6	西区	2.2
3	西区	3.0	天王寺区	2.1	浪速区	1.9
4	北区	2.5	北区	1.9	東成区	1.4
5	天王寺区	1.7	浪速区	1.8	福島区	1.4
6	福島区	1.0	福島区	1.2	天王寺区	1.4
7	淀川区	0.7	都島区	1.0	中央区	1.0

表4-3 人口増減数(下位7区)

順位	平成26年～27年		平成27年～28年		平成28年～29年	
	区名	増減数(人)	区名	増減数(人)	区名	増減数(人)
1	西成区	△ 2,145	西成区	△ 958	平野区	△ 800
2	住之江区	△ 922	平野区	△ 878	住吉区	△ 519
3	平野区	△ 795	住之江区	△ 793	西成区	△ 515
4	大正区	△ 788	港区	△ 484	港区	△ 486
5	東住吉区	△ 612	大正区	△ 469	住之江区	△ 410
6	生野区	△ 353	住吉区	△ 370	旭区	△ 389
7	西淀川区	△ 272	生野区	△ 329	大正区	△ 317

表4-5 人口増減率(下位7区)

順位	平成26年～27年		平成27年～28年		平成28年～29年	
	区名	増減率(%)	区名	増減率(%)	区名	増減率(%)
1	西成区	△ 1.9	西成区	△ 0.9	港区	△ 0.6
2	大正区	△ 1.2	大正区	△ 0.7	大正区	△ 0.5
3	住之江区	△ 0.7	住之江区	△ 0.6	西成区	△ 0.5
4	東住吉区	△ 0.5	港区	△ 0.6	旭区	△ 0.4
5	平野区	△ 0.4	平野区	△ 0.4	平野区	△ 0.4
6	西淀川区	△ 0.3	此花区	△ 0.4	住吉区	△ 0.3
7	生野区	△ 0.3	生野区	△ 0.3	住之江区	△ 0.3

東住吉区△ 68
(13位)

東住吉区△ 70
(16位)

東住吉区△ 0.1

東住吉区△ 0.1

【年齢3区分別人口の推移】

○平成27年と平成28年を比較すると年少人口(0～14歳)のみが減少、生産年齢人口(15～64歳)高齢者人口(65歳～)は増加となっている。

○高齢者人口割合が年々高まっているが、10年間減少し続けていた生産年齢人口が下げ止まっている。

○将来推計人口で比較すると大阪市全体より高齢者比率の上昇幅が大きい(東住吉29.0→36.3・・・7.3P増、大阪市25.3→31.8・・・6.5P増)、年少人口割合の減少幅(東住吉11.4→9.9・・・1.5P減、大阪市11.0→9.7・・・1.3P)についてはほぼ同様となっている。

- 年少人口、生産年齢人口が減少傾向で推移する中、高齢者人口は年々増加しており、平成22年には60万人と、平成2年の31万人と比べ2倍近くになった。
- 今後、高齢者人口は平成27年以降平成42年頃まで横ばいで推移するが、以降は再び増加傾向となり、平成52年には78万人に達すると見込まれている。

○は東住吉区、●は大阪市全体、◎は各区比較

東住吉区					
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成28年
人口総数	139,593 人	135,016 人	130,724 人	126,299 人	126,231 人
0～14歳	17,948 人	17,098 人	15,905 人	14,352 人	14,295 人
15～64歳	94,426 人	86,682 人	81,050 人	74,568 人	74,765 人
65歳以上	26,987 人	31,236 人	33,769 人	36,601 人	37,170 人
15才未満割合	12.9 %	12.7 %	12.2 %	11.4 %	11.3 %
15～64才割合	67.6 %	64.2 %	62.0 %	59.0 %	59.2 %
65才以上割合	19.3 %	23.1 %	25.8 %	29.0 %	29.4 %

東住吉区

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成28年
人口総数	139,593 人	135,016 人	130,724 人	126,299 人	126,231 人
0～14歳	17,948 人	17,098 人	15,905 人	14,352 人	14,295 人
15～64歳	94,426 人	86,682 人	81,050 人	74,568 人	74,765 人
65歳以上	26,987 人	31,236 人	33,769 人	36,601 人	37,170 人
15才未満割合	12.9 %	12.7 %	12.2 %	11.4 %	11.3 %
15～64才割合	67.6 %	64.2 %	62.0 %	59.0 %	59.2 %
65才以上割合	19.3 %	23.1 %	25.8 %	29.0 %	29.4 %

【年齢3区分別人口割合について】

(平成29年10月1日現在推計人口年報)

表7-4 年齢(3区分)別人口割合(上位7区)

順位	0~14歳		15歳~64歳		65歳以上	
	区名	割合(%)	区名	割合(%)	区名	割合(%)
1	鶴見区	15.2	中央区	74.5	西成区	39.9
2	天王寺区	13.0	浪速区	74.1	生野区	31.9
3	阿倍野区	12.5	西区	72.6	大正区	31.1
4	西淀川区	12.3	北区	71.9	旭区	30.0
5	城東区	12.3	福島区	68.0	住之江区	30.0
6	福島区	11.8	天王寺区	66.9	東住吉区	29.5
7	平野区	11.8	淀川区	66.6	平野区	28.4

平成29年10月1日現在の人口に対する割合である。

東住吉区 11.3(11位)

東住吉区 59.3(20位)

年少人口の割合は低いが
社会増(74人)となっている。
※2区(東住吉・阿倍野のみ)

10年間減少し続けて
いた生産年齢人口が
下げ止まっている。

年齢(5歳階級)別社会増減数

	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
大阪市	▲ 2386	▲ 361	113	3962	13180	3929	▲ 1044	▲ 670
東住吉区	5	40	29	192	100	89	73	88
	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
大阪市	185	338	504	223	4	50	116	▲ 338
東住吉区	14	41	32	▲ 1	▲ 11	39	▲ 12	▲ 7

東住吉と阿倍野のみが増加している。

【自然動態（増減）】

○出生率（人口千人に対する比率）については平成17年以降ほぼ横ばい（0.2P減）。**死亡率は10.0%→12.8%と上昇しており、今後も自然減の傾向は続くことが見込まれる。**

○出生率は区別にみたときに16位と下位ではあるが、前回の17位より向上している。

○死亡率は、前回同様4位と24区中上位となっている。

○平成28年の出生数は992人、死亡数は1,617人で625人の自然減となっている。

●大阪市全体では、出生数の減少、死亡数の増加により、平成16年には死亡数が出生数を上回った。出生数の減少と死亡数の増加が続く見込みであり、今後は、自然減の幅の拡大が見込まれている。

◎一人の女性が一生の間に生むと想定されている子どもの数を表す「合計特殊出生率」においては、1.27と大阪市平均の1.25より高くなっている。24区中12位（1位は鶴見区の1.72、最下位は浪速区の0.90）であり、中心部の区よりベッドタウンとなっている周辺の区の方が高い傾向にある。

●大阪市の合計特殊出生率1.25は、全国の平均1.39と比べて低水準で推移してきており、今後も同様の傾向が続くと見込まれている。

○は東住吉区、●は大阪市全体、◎は各区比較

【自然動態について】

(平成29年10月1日現在推計人口年報)

表6-3 自然増減率、出生率及び死亡率（上位7区）

順位	自然増減率		出生率		死亡率	
	区名	(%)	区名	(%)	区名	(%)
1	西区	6.4	西区	12.4	西成区	23.6
2	中央区	3.6	福島区	11.1	生野区	14.3
3	北区	2.9	北区	10.4	東住吉区	13.7
4	福島区	2.7	鶴見区	10.2	旭区	12.8
5	天王寺区	2.7	天王寺区	10.2	大正区	12.6
6	鶴見区	1.4	中央区	10.2	平野区	11.7
7	淀川区	△ 0.4	城東区	8.7	港区	11.7

自然増減率、出生率、死亡率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーミル）である。

東住吉区 △6.2(22位)

東住吉区 △7.5(17位)

自然動態（大阪市と東住吉区）

区名	自然増減数	自然増減率	出生数	出生率	死亡数	死亡率
大阪市	△ 7,181	△ 2.7	22,142	8.2	29,323	10.9
東住吉区	△ 781	△ 6.2	947	7.5	1,728	13.7

【社会動態（増減）】

○平成12年以降平成22年まで減少傾向であった転入者数が増加に転じ平成22年6,725人→平成28年7,333人と増加している。転出者数においても減少傾向にあり平成12年以降減少している。平成12年の転出者9,045人に対し平成28年は6,583人と大幅な減少となっている。

○平成28年は750人の社会増、社会増減率は5.9%増となっている。

●平成13年以降で見ると、大阪市では、概ね年間1万人前後で、転入者数が転出者数を常に上回る状況で推移している。

◎社会増減数を区別にみると、西区が2,497人と最も多く、次いで北区が1,919人、中央区が1,905人など18区で増加となっている一方、住之江区が281人減と最も少なく、次いで港区が200人減、鶴見区が181人減と続いている。

◎社会増減率では、西区が27.0%と最も高く、次いで中央区が20.5%、浪速区が18.1%など市域中心部で高い増加率となっている一方、港区が2.4%減で最も低く、住之江区が2.3%減、此花区が2.1%減と続いている。

○は東住吉区、●は大阪市全体、◎は各区比較

【社会動態について】

(平成29年10月1日現在推計人口年報)

表6-7 社会増減率、転入率及び転出率(上位7区)

順位	社会増減率		転入率		転出率	
	区名	(%)	区名	(%)	区名	(%)
1	北区	24.3	浪速区	154.8	浪速区	133.4
2	浪速区	19.9	中央区	134.1	中央区	123.5
3	東成区	17.6	北区	114.0	西区	95.4
4	西区	16.1	西区	113.5	北区	88.1
5	西成区	14.8	天王寺区	90.3	天王寺区	76.3
6	天王寺区	11.3	東成区	88.1	福島区	72.0
7	福島区	11.3	福島区	83.6	淀川区	71.3

社会増減率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰(パーミル)である。

東住吉区 5.6(14位)

東住吉区 57.4(15位)

東住吉区 50.7(17位)

年齢(5歳階級)別社会増減数

	0~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳
大阪市	▲ 2386	▲ 361	113	3962	13180	3929	▲ 1044	▲ 670
東住吉区	5	40	29	192	100	89	73	88
	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上
大阪市	185	838	504	223	4	50	116	▲ 338
東住吉区	14	41	32	▲ 1	▲ 11	39	▲ 12	▲ 7

東住吉と阿倍野のみが増加している。

【世帯数について】

○平成27年の東住吉区の世帯数は57,797世帯、平成26年の58,135世帯に比べ、338世帯の減少。1世帯当たり人員は2.19となっている。

●大阪市全体での1世帯当たり人員は1.99となっており、減少傾向にある。

◎増減数を区別にみると中央区が2,547世帯増と最も多く、次いで北区が2,107世帯増、西区が1,404世帯増と続いている、一方、西成区が1,504世帯減と最も少なく次いで東住吉区が338世帯減、大正区が271世帯減と続いている。

◎1世帯当たり人員をみると、鶴見区が2.41人と最も高く、次いで大正区が2.23人、西淀川区が2.22人、平野区が2.21人、東住吉区が2.19人と続いている。一方、最も少ない区は浪速区の1.41人、次いで中央区が1.58人であり西成区が1.62人と続いている。

○単独世帯率は40.4%と大阪市全体の48.7%に比べると低い。

○核家族世帯率は51.8%と大阪市全体の45.1%に比べると高い。

◎高齢単身者世帯率は、17.4%で4番目に多い。最も高い区は西成区で32.9%、最も低い区は、西区で7.5%となっている。

◎高齢夫婦世帯率は、**10.3%**で**5番目**に多い。最も高い区は大正区で11.0%、最も低い区は、浪速区で3.1%となっている。

○は東住吉区、●は大阪市全体、◎は各区比較